



他校の友達と一緒に授業 山県学園オープンスクール



12月16日、市内全小中学校で、山県学園オープンスクール2023を行いました。

山県学園とは、少子化による子どもの減少に対し、学校を統廃合するのではなく、他校に移動したり、オンラインでつないだりして合同で授業を実施するシステムです。

当日、梅原小学校では、梅原・大桑・桜尾小学校の3年生が外国語活動で英語のクイズ大会を行い、他の学校の児童とも楽しく問題を出し合っていました。

安全に使えば怖くない！ 園児のナイフワーク教室

12月19日、みやま保育園で行われたナイフワーク教室に、園児7人が参加しました。

岐阜県立森林文化アカデミーの前野健さんを講師に迎えたこの教室は、さまざまな道具を安全に使用して、市の自然を生かしたもののづくりを楽しむことを目的としています。

3回目となる今回は、ナイフの安全な使い方学んだ後、木を削って色を塗り、帽子をかぶった小人を作りました。園児は「木が堅くて大変だったけど楽しかった」と話しました。



明るい未来に希望を乗せて 令和5年度山県市二十歳会



1月7日、美山中央公民館で、令和5年度山県市二十歳会を開催し、216人が参加しました。成人年齢が18歳に引き下げられたことを受け、昨年度から名称を二十歳会に変えて実施しています。

式典では、二十歳会実行委員の大野光樹さん、野村隼聖さんが市民憲章の唱和をした後、高瀬賢成さん、矢崎麻莉奈さんが二十歳の誓いを述べました。また、式典の後には、実行委員主催の交流会が行われ、懐かしい恩師や友人との再会に参加者からは笑顔があふれました。

親子で来て・見て・楽しむ 子育て福祉応援フェア

1月13日、マールサ21で「ハタチの山県市記念事業子育て福祉応援フェア@マールサ21」を開催しました。当日は、伊自良北小学校児童による伊自良十六拍子の演奏や山県市吹奏楽部ミニコンサートなどが行われ、それぞれのステージに温かい拍手が送られました。また、市内保育園児の作品展や山県高校の生徒による工作教室、障がい福祉施設による農作物などの販売も行われ、市の魅力が詰まった1日となりました。



山県の木が河川を守る 大桑小学校で粗朶^{そだ}の学習

1月15日、大桑小学校5・6年生が粗朶の学習を行いました。

粗朶とは、細い枝を束ねた資材で、川岸の底に敷き、川底が削られないようにするものです。長持ちすることや生き物のすみかになることなど、SDGsの観点からも重要な資材です。

当日は、岐阜県立森林文化アカデミーの柳沢直教授を招き、粗朶について学んだ後、全国でも2カ所しかない粗朶の生産地である椎倉地内の山林で実際に粗朶作りを体験しました。



収穫した大豆を使って 伊自良南小学校で豆腐作り

1月16日、伊自良南小学校で、JAぎふの食農リーダー9人を講師に迎え、3年生児童11人が豆腐作りを体験しました。

使った大豆は、児童が昨年6月に学校の畑で育て、11月に収穫したものです。児童は3〜4人一組となり、ミキサーで大豆を潰して煮た後、水気を絞りにがりを入れて成型し、1丁の豆腐を作りました。豆腐を試食した児童は「売っている豆腐と食感が違っておいしい」と味わって食べました。





健康な歯と口を保つ 村橋俊幸さんと 8020交流会



12月20日、伊自良北小学校で、村橋俊幸さんを講師に迎え、5・6年生児童と8020交流会を行いました。

村橋さんは、令和2年に80歳を超えても健康な歯を20本以上保持しているとして、市から「8020達成者」の表彰を受けています。当日は、歯や口の健康を保つ秘けつとして、食後に歯磨きを丁寧に行うことや歯科医院の通院、歯ブラシと歯磨き粉の選び方について話を聞きました。

山県市スポーツ少年団 全国大会結果報告と激励会



12月18日、令和5年8月の第43回全日本バレーボール小学生大会に、山県市スポーツ少年団の山県男子が出場したことで、令和6年3月の第21回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会に、同団の高富ジュニアバレーが出場することを受け、結果報告と激励会を行いました。

高富ジュニアバレーキャプテンの江竜虹結さんは「チーム一丸となって頑張りたい」と全国大会に向け、意気込みを語りました。

気象予報士さんに学ぶ お天気教室を開催



12月17日、気象予報士の槇野泰夫さんを講師に迎えてお天気教室を開催し、市内小学生の親子21人が参加しました。当日は、ペットボトルや釣り糸、ドライアイスなどを使って雪の結晶ができる仕組みを学びました。参加者が作った結晶は、それぞれ違った形の結晶ができあがり、槇野さんは「自然の雪の結晶は、温度や水蒸気の量などでさまざまな形の結晶を作り出す。雪が降ったら、どんな形をしているか観察してください」と伝えました。

山県の自然を満喫 モバイルハウスで「お試しプチ滞在」

1月22日、スノーピーク社のモバイルハウスを活用した「お試しプチ滞在」の記者発表を行いました。

この事業は、1月22日から3週間、片狩地区に設置したモバイルハウスに市外から来た人がリモートワークをしながら1泊2日で滞在するものです。参加者からのアンケートを通じて市の課題や魅力を検証し、将来的な移住定住者増加を見据えた今後のシティプロモーション事業に生かしていきます。滞在者第1号の大畑さんは「山県市は自然が豊かで1泊するのが楽しみ」とわくわくした様子でした。



ライフスポーツ財団が 子ども活動支援金を交付



公益財団法人ライフスポーツ財団から市へ、令和5年度子ども活動支援金の交付がありました。この支援金は、子どもたちの健全な心身発達のために、日常的な運動遊びやスポーツに親しむための取り組みを行う地方公共団体に交付されるものです。交付された支援金は、富岡保育園が設置したコンビネーション遊具の補助に活用しました。1月9日には、富岡保育園で披露目会を行い、安全な遊び方を確認しました。

小倉百人一首かるた部門 委員会生徒が表敬訪問



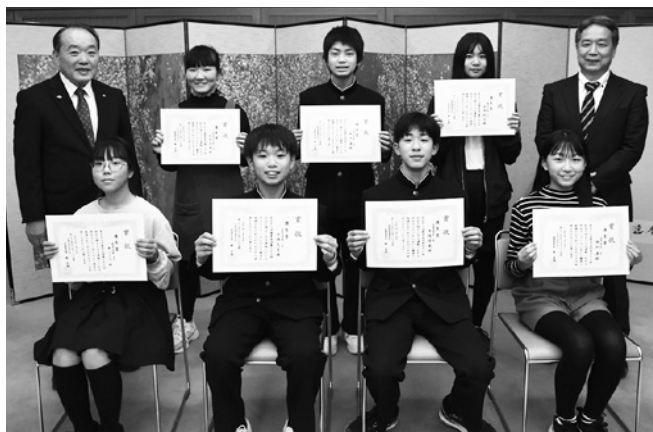
12月22日、市役所公室で、令和6年7月に第48回全国高等学校総合文化祭の小倉百人一首かるた部門大会が市で開催されるにあたり、委員会生徒として鶯谷高校の生徒2人が市長を表敬訪問しました。全国高等学校総合文化祭は、19の規定部門と三つの協賛部門からなる全国の高校生による芸術文化活動の祭典です。委員長の中村美寿々さんは「百人一首かるたに触れる機会はあまりないのでぜひ観戦してほしい」と話しました。

市出身選手5人が出場 春高バレー出場選手激励会



12月20日、令和6年1月4日から開催された春の高校バレー第76回全日本バレーボール高等学校選手権大会に、市出身の選手が、県立岐阜商業高校からは3人、済美高校からは2人出場することを受け、激励会を行いました。当日は県立岐阜商業高校の選手3人が来庁し、3年生の北村鈴さんは「岐阜県の代表として、これまでの練習の成果を発揮できるよう頑張りたい」と思いを話しました。

社会を明るくする運動 作文コンテスト表彰式



1月19日、市役所公室で、第73回社会を明るくする運動作文コンテスト入賞者の表彰式が行われました。当日は、優秀賞4人と優良賞4人のうち7人が出席しました。市長は「素晴らしい作品ばかりだった。多くの子どもたちに伝えていきたい」と話しました。なお、県で最優秀賞を受賞した尾関将成さんと優秀賞を受賞した村瀬克宏さんの作品は次のページで紹介しています。